

地域研究のたまし絵

「グローバル化」という言葉は、私たちが研究対象とする「地域」が普遍的で自明な単位でないことに気づかせてくれた。しかし、それはただ「地域」を地球という次元に置き換えて「地域」への眼差しを問い直せばことたりるといった次元の問題ではもちろんない。「グローバル化」という言葉は、近代以降の学知が依拠してきた「地域」を認識する枠組みがある種のたまし絵として描かれてきたいことを明らかにしている。

本シンポジウムでは、「地域」認識の枠組みそのものを再考するうえでの有力なヒントを含む4つの研究を手がかりに、近代的な「地域」認識の枠組みを一方では現在と過去の対比から、他方では見る者と見られる者の対比から相対化し、それを取り去った後に見える「地域」への眼差しのあり方（あるいはもう一つのたまし絵）について何らかの展望を得たいと考えている。



「グローバル化」

後に

「地域」

への

眼差しを

再考する



(趣旨説明と第1報告)
古谷大輔 (大阪大学世界言語研究センター准教授)
地域像の「北欧」的紡ぎ方 — 地域認識をめぐる座標軸の歴史の変遷

(第2報告)
齋藤 剛 (神戸大学大学院国際文化研究科准教授)
「非境界型世界」という視座から「地域」を再考する
— 中東に生きる人々に学ぶ「地域」の捉え方

(第3報告)
山根 聡 (大阪大学世界言語研究センター教授)
南アジアのムスリムが描く地域像 — 国家、地域、ネットワーク

(第4報告)
床呂郁哉 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授)
「グローバル/ローカル」を問い直す — スルー・海域世界から
見た複数のグローバリゼーション

(司会)
宮原 暁 (大阪大学グローバルコラボレーションセンター准教授)

(ディスカッサント)
中川 理 (大阪大学グローバルコラボレーションセンター特任准教授)
村上忠良 (大阪大学世界言語研究センター准教授)



日時：2011年11月4日(金) 15時30分～19時

場所：大阪大学豊中キャンパス 文系総合研究棟301講義室

主催：大阪大学グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)

大阪大学世界言語研究センター

地域研究コンソーシアム (JCAS)

新学術領域研究「国家の輪郭と越境」

参加：無料、事前申し込み不要



地域研究コンソーシアム「コンソーシアム・ウィーク」シンポジウム 地域研究のだまし絵 — 「グローバル化」後に「地域」への眼差しを再考する

(趣旨説明)

「グローバル化」という言葉は、私たちが研究対象とする「地域」が普遍的で自明な単位でないことに気づかせてくれた。人やモノや情報が境界を越えて流れ、ある「地域」の問題が別の「地域」の問題と複雑に絡まりあっていることがますます明らかになりつつ今日、近代以来つくりあげられてきた社会や国家をめぐる概念がもはや妥当ではないという反省は、素直に受け入れられるようになってきている。そのような反省が広まるにつれ、私たちは境界を越えた人やモノのフローを考慮に入れつつ、どのように「地域」を概念化すればよいのかという問題に直面するようになってきている。

この問いかけは、ただ「地域」を地球という次元に置き換えて再考すればよいというものではない。「グローバル化」という言葉は、近代以降の学知が依拠してきた「地域」を認識する枠組みもまた普遍的で自明なものではないことを明らかにしているためである。それゆえ、「地域」研究に携わる私たちが今日この問いかけを発する際には、「地域」を認識する枠組み自体を考え直してみるべきだろう。今日における「地域」の再検討は、一方で「グローバル化」という言葉を梃子に明らかにされてきた実態に即した地域の姿に即しつつ、他方で「地域」への眼差しが歴史的にみてどのような認識枠において用意されてきたのかという省察に基づきつつ、進められねばならないのである。

こうした問題関心に即しつつ、このシンポジウムは、現在と過去の対話や見る者と見られる者の視線の交錯を通して、「地域」認識の枠組みそのものを再考しようとするものである。このシンポジウムが議論の俎上に載せる「地域」認識の枠組みのひとつは、言うまでもなく欧米の近代的学知が用意したものであるが、そもそもそうした認識枠自体が欧米の学知が生み出した歴史的な生成物である。今日において「地域」を再考しようとする者は、従来の「地域」に対する眼差しの相対性を意識する必要があるだろう。そこで、このシンポジウムは、そうした近代的な「地域」認識の枠組みを一方では現在と過去の対比から、他方では見る者と見られる者の対比から、相対化することを第一の目標とする。

近代的学知が用意した「地域」認識の覆いが取り払われた後に、私たちの時代の「地域」への眼差しはいかようなものでありうるのか。それは、ときに各々の「地域」で育まれてきた知的構造に組み込まれている独特な時空間認識の座標に従うものとなり、ときに「地域」を見る者/見られる者がそれぞれに抱く時空間をめぐる認識枠のズレから生み出されるものとなろう。このシンポジウムは、近代的な認識枠を取り去った後に見えてくる「地域」認識のダイナミックな構築過程を見据えることで、今日的状況に即した「地域」への眼差しのあり方に対して手がかりを得ることを第二の目標とする。

※表面挿絵：A MEMORABLE EMBASSY TO THE EMPEROR OF JAPAN より

地域研究コンソーシアム年次集会関連イベント

- 11/4 (金) シンポジウム (文系総合研究棟301講義室)
15:30- 地域研究のだまし絵：「グローバル化」後に「地域」への眼差しを再考する
- 11/5 (土) 年次集会・公開シンポ (文系総合研究棟302講義室)
10:00~ 第1部：総会
13:00~ 第2部：シンポジウム
「情報災害」からの復興：地域の専門家は震災にどう対応するか
18:30~ 懇親会 (大阪大学待兼山会館 LIBRE)
- 11/6 (日) 次世代地域研究ワークショップ
14:00~ 会場A (文系総合研究棟302講義室)
「イスラムが経済に与えるインパクト」
会場B (ステューデント・コモンズ2階セミナー室)
「トランスナショナルな子どもたちの教育を考える：課題解決の方法を探る」*要事前登録

会場：大阪大学豊中キャンパス 文系総合研究棟301講義室

